

科目名		授業形態	担当教員名	
運動学		講義	石橋 保子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
運動学では運動器の構造がその機能とどのように関係しているのかを学ぶ。そして複雑な身体運動の中で最も基礎となる各関節の構造と機能に加えて、筋や重力等との関係においてどのように運動を実現させているのかを学ぶ。将来、作業療法士を目指す者にとって、患者様の運動や動作、日々の活動のし辛さの解消に取り組むことは最も重要な仕事であり、その基礎となるのが運動学である。				
授業の到達目標				
1. 関節包内運動について説明できる。 2. 各関節の構造について説明できる。 3. 各関節の機能について説明できる。 4. 各関節の関節運動について説明できる。 5. 姿勢保持の筋活動について、重心及び力のモーメントの視点から説明ができる。 6. 基本動作を運動学的視点から説明できる。 7. 姿勢と重心と支持基底面の関係性について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	関節の構造と機能・関節包内運動			
2	筋の構造と働きと収縮様式			
3	肩複合体の構造			
4	肩複合体の機能と関節運動			
5	肩複合体のまとめ			
6	肘関節・前腕の構造と機能と関節運動			
7	手関節の構造と機能と関節運動			
8	手指の構造と機能と関節運動			
9	肘関節・前腕・手関節・手指のまとめ			
10	股関節の構造と機能と関節運動			
11	膝関節の構造と機能と関節運動			
12	足関節および足部の構造と機能と関節運動			
13	下肢のまとめ			
14	脊柱・体幹の構造と機能と関節運動			
15	姿勢・重心・力のモーメント・基本動作の成り立ち			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート				
小テスト	30%	3 回行います。		
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
基礎運動学 第 6 版補訂		中村 隆一 他	医歯薬出版株式会社	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学		野村 巖 編	株式会社 医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
覚える範囲が多いので授業終了後に知識の整理をすることをお勧めします。複雑な関節運動の理解が難しい場合は適宜、骨標本で実際の運動を再現する等し、理解できるよう努めて下さい。				